

中学校

平成 12 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

平成12年度

教育研究員名簿（総合的な学習の時間）

| 地 区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|---------|-----------------|-----------|
| 新 宿 区 | 牛 込 第 三 中 学 校 | 長 崎 秀 一 |
| 文 京 区 | 茗 台 中 学 校 | 小 柳 隆 |
| 墨 田 区 | 鐘 淵 中 学 校 | 宮 原 正 伸 |
| 大 田 区 | 南 六 郷 中 学 校 | 北 村 隆 |
| 練 馬 区 | 光 が 丘 第 三 中 学 校 | 青 木 保 |
| 江 戸 川 区 | 二 之 江 中 学 校 | ◎ 千 葉 広 美 |
| 町 田 市 | 堺 中 学 校 | ○ 川 島 清 美 |
| 国 立 市 | 国 立 第 二 中 学 校 | 佐 藤 高 彦 |
| 福 生 市 | 福 生 第 三 中 学 校 | 山 本 豊 彦 |
| 清 瀬 市 | 清 瀬 中 学 校 | 梅 村 恵 美 子 |

◎世話人 ○副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 細 谷 美 明

目 次

| | | |
|-----|------------------------------|----|
| I | 主題設定の理由 | 2 |
| II | 研究の概要 | 2 |
| III | 「総合的な学習の時間」における生徒支援についての考え方 | 4 |
| 1 | 「総合的な学習の時間」のカリキュラムスタイル | 4 |
| 2 | ガイダンスの定義 | 4 |
| IV | 学校運営と組織 | 6 |
| 1 | 「総合的な学習の時間」に関するアンケートの結果とその考察 | 6 |
| 2 | 「総合的な学習の時間」の実施における不安解消の方策 | 8 |
| V | 「総合的な学習の時間」における生徒支援の流れと方法 | 12 |
| VI | 実践例 | 14 |
| 1 | 「総合的な学習の時間」におけるガイダンスと単元学習の流れ | 14 |
| 2 | 「総合的な学習の時間」指導案① | 14 |
| 3 | 「総合的な学習の時間」指導案② | 20 |
| 4 | 「総合的な学習の時間」指導案③ | 22 |
| VII | 成果と課題 | 24 |

研究主題

生徒の学習意欲を高め、新たな課題を発見し、追究する
「総合的な学習の時間」のあり方について

— サブテーマ —

ガイダンスの機能に着目した初期段階における生徒支援の体制づくり

I 主題設定の理由

「総合的な学習の時間」では、生徒が自ら学び、自ら考える力を育成することをねらいとしている。そして、各学校が生徒や地域社会の実態に応じ、創意工夫を生かした教育活動を展開できるようにすることが求められている。

生徒が興味・関心を大いに喚起できるような学習活動を展開するためには、教師自身も豊かな創造力を発揮し、生徒一人一人の自由な発想と個性を大切にする姿勢をもち、適切な支援をしていくことが必要となる。また、学校全体としての共通理解を図り、「総合的な学習の時間」を組織的・計画的に運営していく必要がある。

しかし、現実には「何をやったらよいのか」「時数配置や年間計画をどのようにしたらよいのか」など、多くの教員が実施にあたり疑問や不安を抱いている。

また、「総合的な学習の時間」について、いろいろな考えが指摘されている。例えば、「総合的な学習の時間」を生徒の生活に直結し、生徒の生活を生き生きと蘇らせる時間にしたいという考え方がある。また、知識の量的な獲得へつながっていた学習を、自然や他者とのかわり合いや文化的世界に触れながら、本来の「学び」を回復させる時間にしたいという考え方もある。さらに、各教科等で学習してきた内容や学習方法を、相互にかかわり合うことで実際の場面に生かしていく、知のネットワーク化や知の総合化という考え方もある。他には、各教科の学習内容を出発点として、新たな学習を構成するクロスカリキュラムや横断的な学習の時間とする考え方などもある。

このように、「総合的な学習の時間」の実施にあたっては、教員にとっても生徒にとっても不安材料の多いスタートとなるが、これまでの学校観、授業観、生徒観の転換を図りながら、学校教育目標の達成や「生きる力」の育成にむけて「総合的な学習の時間」を実践していくことが大切である。

そのために、まず必要不可欠なこととして、教員のかかわり方や支援について、ガイダンスの機能に着目した初期段階における生徒支援の体制づくりの研究を試みた。

II 研究の概要

研究を進めるにあたり、「総合的な学習の時間」について、学校ではどのようなことが課題となっているのかを把握するためにアンケートを実施した。アンケート結果からは以下の点が明らかとなった。

- ① 中学校教育において、「社会で生きていく力」や倫理観・道徳性を身に付けることが大切である、という意見が多数を占めている。

② 「社会で生きていく力」の育成を「総合的な学習の時間」にどのように展開していくのか、はっきりしない。

③ 「総合的な学習の時間」についての関心や理解はあるが、実際に「だれが」「どのように」していったらよいのか、疑問や不安がある。

つまり、生徒の学習意欲を高める指導方法を研究すること、リーダーシップを発揮する組織づくりを研究することが必要であると判明した。

そこで、私たちは次のような仮説を立てた。

仮 説

教師及び生徒相互の様々な支援活動を充実することで、生徒の学習意欲が増し、自己指導能力が高まるのではないか。

そして、以下の方法で研究に取り組んだ。

1 「総合的な学習の時間」における生徒支援についての考え方を明らかにするために、「総合的な学習の時間」のカリキュラムスタイルとガイダンスの定義付けをした。

カリキュラムスタイルについては、学習者（学習主体の単位）と学習方法という二つの面から考えてみた。ガイダンスは、今回の学習指導要領の総則において示されているように、生徒の自己実現を進める観点から新たに充実を求められた機能である。「総合的な学習の時間」における教員の役割を明確にするならば、ガイダンスについての定義をしておく必要があると考えた。

2 学校組織と運営にかかわる点について、教員アンケートの結果をもとに具体的な不安解消の方策を明らかにした。

多くの不安や疑問は、解決すべき課題として具体的に話し合っていかなければならない。そのためには、まず推進役になる組織づくりが必要であると考えた。そして、具体的な導入に当たっての流れを示した。

3 「総合的な学習の時間」における生徒支援の流れと方法について、具体的な方策を例示した。

「総合的な学習の時間」において、生徒が課題を発見し、課題を追究し、まとめ、発表するという各場面ごとに、教員の支援はどうあるべきかを具体的に示した。どの場面においても、ガイダンスの機能の充実に心掛けた。

4 生徒の自由な発想による課題の発見を試み、授業の中で「課題の発見のための支援」の検討を行なった。そして、生徒の相互評価、教師の評価を含めた「課題の追究のための支援」の指導案を作成した。

生徒が課題を発見していくためには、探究心をかりたてるような様々な体験をする必要がある。そして、自由な発想をお互いに出し合う中で、気が付いたことや考えたことをまとめ、具体的な課題が少しずつ明らかになっているのではないかと考え授業実践を試みた。

また、自己評価や他者からの評価を繰り返すことで、新たな活動意欲を生み出すことにつないでいくことも考えた。生徒によって課題が異なることで、学習スキルや社会的スキルをどのように習得させるか、今後の研究の土台となる部分考えた。

Ⅲ 「総合的な学習の時間」における生徒支援についての考え方

1 「総合的な学習の時間」のカリキュラムスタイル

「総合的な学習の時間」のカリキュラム編成の形態を考えると、学習者（学習主体の単位）の面と学習方法という二つの面から考えることができるといわれている。

(1) 学習者の形態

学習を進める単位は学校、学年、学級、グループ、個人単位のものと考えられる。そして、生徒の発達段階によってそれらをどのような割合、バランスで組むかが重要となる。

(2) 学習方法の形態

課題設定型（課題性重視型）と生徒出発型（生徒の主体性重視型）が考えられる。これについても、生徒の発達段階に応じたバランスが大切になる。

ア 課題設定型（課題性重視型）

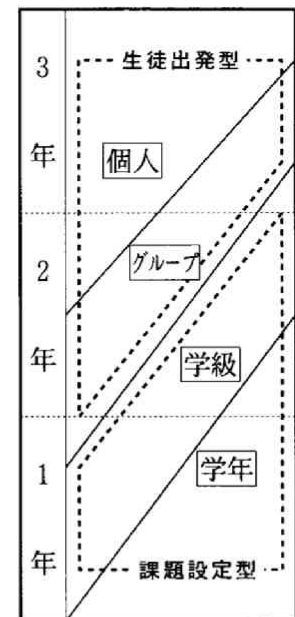
国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題を学校、学年、学級として設定し、その範囲の中で個人を含む様々な単位でテーマに取り組む。

イ 生徒出発型（生徒の主体性重視型）

生徒自身の興味・関心に基づく課題を個人として設定し、取り組む。自分たちのわかり方を、自分たちで表現していくという過程を大切にする学習である。

課題設定型についても、学習の初期の段階、入り口において、学習対象に大枠をつけているが、学習が進む中で、また最終的には、生徒個々の個人的なテーマに向かう形態へと変化していく。課題設定型、生徒出発型のいずれの形態にしても、生徒に自分自身の興味・関心に基づくテーマを見付けさせ、問題意識をもたせる段階を経て、追究できる環境が必要となる。

「総合的な学習の時間」の趣旨から考え、その発展形態は、学習者の形態としては、学習集団は大きなものから小さなもの、最後には個人へ、学習方法としては、大枠を設定された課題から個人で設定する課題へというものが求められる。



発達段階に応じた学習者の形態例

2 ガイダンスの定義

ガイダンスとは、アメリカ合衆国で始まり、初期段階においては精神衛生運動や教育測定運動として捉えられた。その後、様々な指導領域（修学・学業、個人適応、社会・公民性、道徳性、健康、進路、余暇）に広がり、教科指導とともに重視され、学校としての二つの重要な教育機能の一つになった。第二次世界大戦後、日本に導入され、生徒指導と極めて密接な関係になる（第一法規「学校教育相談の理論・実践事例集No.50」より）。ただ、その後は、主に特別活動の進路指導において、ガイダンスの機能は果たされていたが、その他の場面での充実をあまり見ることはできていなかった。教育課程審議会の答申や今回の学習指導要領の総則においては、生徒の学校生活への適応や主体的選択、自己実現のために、学校と

してガイダンスの機能の充実に努めることを求めている。その背景としては、①生徒の実態への問題意識、②生徒の社会性や人間性、③自分で意思決定し、自己責任を負うという社会的要請の三つがある。教育活動としてのガイダンスは、「生きる力」の根底にある自己指導能力の形成・向上であり、他者との関係の中で自己を生かし、実現を図り、自己指導能力や態度を形成し、教科指導における選択や進路選択という現実的な課題に対応できる力を育てることといわれている。

新学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じてガイダンスの機能の充実に図ることが初めて求められた。学習への意欲や学習における目的意識を喪失し、自分を見失いがちな生徒が見られる中で、生徒一人一人の自己実現を進める観点から、新たに示されたわけである。ガイダンスの機能の充実に図ることは、選択や決定、主体的な活動に関して、生徒自らが生き方を考え行動する態度や能力を育てる上で重要な意味をもつこととなる。

今までの教科指導においては、仮に教師からの一方的な指導によっても、形態上や表面上は学習活動を成立させることは可能であった。教科指導の目標に合わせての活動を教師が指導するという形で行えば、学習は成立した。しかし、「総合的な学習の時間」においては、目標は生徒個々によって異なっており、教師は生徒の学習活動とともに進む立場にある。生徒の学習活動に参加することはできるが、活動の目的に対して導く立場ではない。このような学習においては、教師は指導者としてではなく、ガイダンスの機能をもった存在としての役割を果たす必要がある。

ガイダンスについては、特に学習の初期段階での導入として位置付けることもある。ただ、「総合的な学習の時間」の目的や内容についての説明はオリエンテーションとして位置付け、このオリエンテーションもガイダンスの一部と捉えてみる。課題追究に向けた出発時の課題設定、動機付けのみでなく、その後の学習過程すべての場面での教員のかかわりをガイダンスと考え、次のように定義付けをしてみた。

ガイダンスとは、具体的には、生徒が自ら課題を見つけ、解決できるよう、オリエンテーションや課題追究のための適切な情報提供や案内・説明、活動体験、各種の指導・援助・相談活動などを、学校として組織的・計画的に進めていくことである。

すなわち、ガイダンスとは、「総合的な学習の時間」における教師の役割の主要な部分を占めるものと捉えた。ゆえに、「総合的な学習の時間」の流れの中には、いくつかのガイダンスがあることとなり、教師はそれらを場面ごとに組織的・計画的に行う必要がある。

「総合的な学習の時間」の流れ（具体的なガイダンス）

- | | | |
|------------|-----------------|-----------|
| ①オリエンテーション | ⑦中間報告 | ⑫発表会 |
| ②問題提起・課題設定 | ⑧相互評価とそれを受けての修正 | ⑬研究の総括 |
| ③課題設定の下調べ | ⑨課題追究 | ⑭相互評価 |
| ④問題解決の計画 | ⑩まとめ | ⑮自己評価 |
| ⑤資料収集 | ⑪報告書作成・ | ⑯新たな課題の発見 |
| ⑥スキルの学習 | プレゼンテーション | |

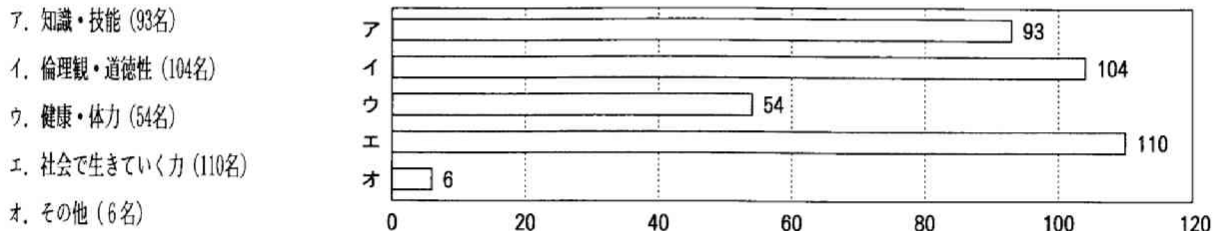
IV 学校運営と組織

1 「総合的な学習の時間」に関するアンケート調査の結果とその考察

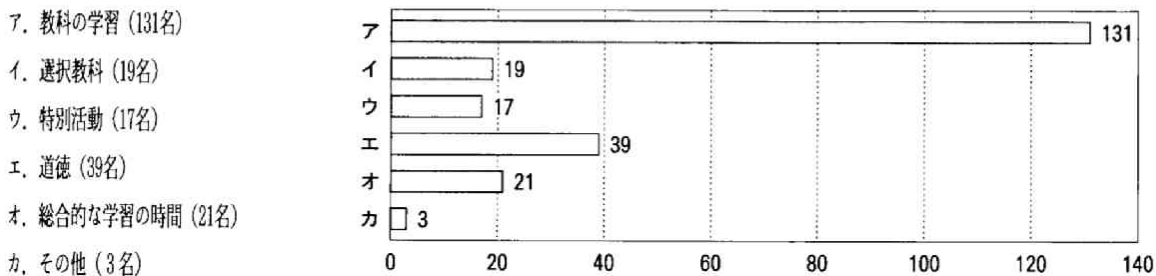
研究を進めるにあたり、「総合的な学習の時間」に関する教員の意識について、次のようなアンケート調査を行った。対象は研究員の所属する9校の教員である。(回答数154)

* 「総合的な学習の時間」は「総合」とし、1. 2. 7. 10. 11. 12の質問は「複数回答可」とした。

1. あなたは中学校教育において、生徒がどのようなことを身に付けることが大切だとお考えですか。

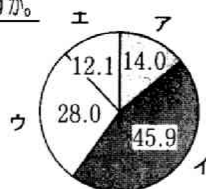


2. あなたは平成12年度以降、中学校教育において特に力を入れていかなければならないとお考えになるものはどれですか。



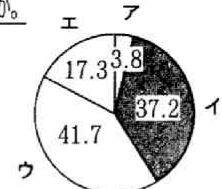
3. あなたは「総合」に関心がありますか。

- ア. かなりある (22名)
- イ. ある程度ある (72名)
- ウ. 少しある (44名)
- エ. ほとんどない (19名)



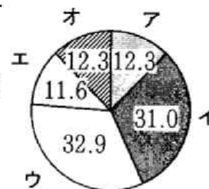
4. あなたは「総合」についてどの程度理解していると思われますか。

- ア. かなり理解している (6名)
- イ. ある程度理解している (58名)
- ウ. 少し理解している (65名)
- エ. ほとんど理解していない (27名)



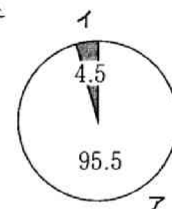
5. 「総合」についての現在の先生ご自身のお気持ちをお答え下さい。

- ア. 積極的にやりたい (19名)
- イ. やりたい気持ちはあるがどうやっていいかわからない (48名)
- ウ. 決まってしまったことだから仕方ないのでやる (51名)
- エ. やりたくない (18名)
- オ. その他 (19名)



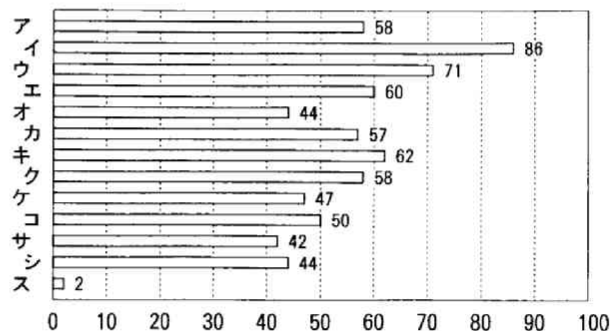
6. あなたは「総合」を実施するに当たって疑問や不安に思うことはありますか。

- ア. ある (147名)
- イ. ない (7名)



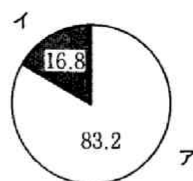
7. あなたは「総合」を実施するに当たり、どんなことが課題になると思われますか。

- ア. 教師の意識 (58名)
- イ. 教師の共通理解や連携 (86名)
- ウ. 教師の指導(支援)の方法 (71名)
- エ. カリキュラム作り (60名)
- オ. 評価の方法 (44名)
- カ. 地域との連携 (57名)
- キ. 教育課程の編成(時間割) (62名)
- ク. 教材の開発・作成 (58名)
- ケ. 生徒指導上の問題 (47名)
- コ. 校外の施設 (50名)
- サ. 予算 (42名)
- シ. 生徒・保護者の意識 (44名)
- ス. その他 (2名)



8. あなたは「総合」を推進するに当たって、「推進委員会」のような組織は必要だと思いますか。

- ア. はい (119名)
- イ. いいえ (24名)

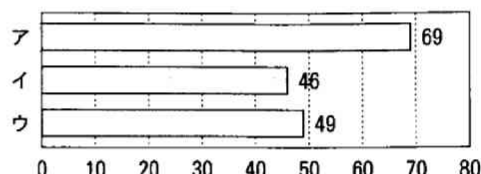


9. 8でアとお答えになった方は、どのようなメンバーで構成したらよいと思われますか。

- チーフ+各学年1 (2) 名 ○チーフ+教科主任 ○教務主任 (研修主任) +各学年1 (2) 名 ○教頭+チーフ+教務主任+学年主任 ○管理職+事務+各学年1名
 - 教科主任+分掌主任 ○管理職+教務主任+各学年1名+生徒会担当 ○研修主任+学年主任+教務主任+生活指導主任 ○適性のある人
- など様々な意見があったが、各校の実態に応じて考えるべきであろう。

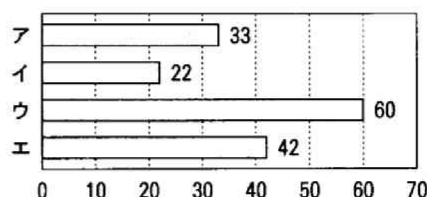
10. あなたは「総合」を展開する際の視点として示されている3つのうち、どれに取り組んでみたいですか。

- ア. 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題 (69名)
- イ. 生徒の興味・関心に基づく課題 (46名)
- ウ. 地域や学校の特色に応じた課題 (49名)



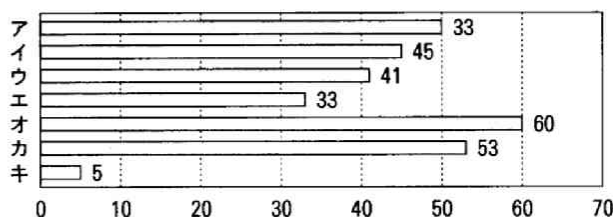
11. 10のアで示した横断的・総合的な課題の中では次のどれに取り組んでみたいですか。

- ア. 国際理解 (33名)
- イ. 情報 (22名)
- ウ. 環境 (60名)
- エ. 福祉・健康 (42名)



12. あなたが具体的に「総合」でやってみようと思われることはどんなことですか。

- ア. 自然体験 (50名) イ. ボランティア活動 (45名)
- ウ. ものづくり体験 (41名) エ. 調べ学習 (33名)
- オ. 職場体験 (60名) カ. 郷土学習や地域に根差した活動・体験 (53名)
- キ. その他



13. その他あなたが現在、「総合」について考えておられること、感じておられることがありましたら、お書き下さい。

- 取り組んでいけばいろいろ効果がありそうですが、何からどうやって手を着けたらいいか、今勉強中なので、まだまだこれからだと思います。
- 教科の基礎・基本をしっかり身に付け、その上に立った「生き方」を考えられる「総合」に取り組んでいきたいと思う。そのために、各校の実態に即した単元構成・年間カリキュラムを教師の創意工夫をこらして作り上げていくことだと思う。
- 基礎学力がつかなければ「考える力」「調べる力」がつかないと思うので、基礎学力をしっかり定着させることができるかどうか非常に心配。
- 各教科の基礎・基本の内容の充実・定着を推進し、このことを土台にガイダンス・支援の体制をどう作り上げるかを考えていく必要がある。
- 生徒が興味を持って取り組むための導入が特に大事だと思う。そのためには「総合」をやるための会議 (話し合い) が必要ではないか。
- 生徒の実態によって実施が厳しい場合があると思う。 ○教師の意識が高まっていないのが心配。 ○教師の理解のギャップが大きい。

【アンケートの結果から】

アンケート1の結果からも見て取れるように、いわゆる「生きる力」が必要だと考えている教師が多い。しかし、その「生きる力」と「総合」がまだはっきりと結びついていない現状があり、逆に、2や13の結果などからも、学力低下に拍車がかかるのではないかと危惧を抱いている教師が多い。また、多くの教師が「総合」についての関心や理解がある程度進んでいるようであるが、実際に「だれが」「どのように」推進し、支援していったらよいかということになると、まだまだ暗中模索の状態と言える。具体的な課題としては、教師の意識や共通理解・指導 (支援) の方法・カリキュラム・地域社会との連携などをあげている

教師が多い。以上のことから、ほとんどの教師が疑問や不安をもっている中で、それらの課題を解決していくため、まず推進役になる組織を作り、そこが中心になって企画・推進していくことが非常に大切であると考えた。

2 「総合的な学習の時間」の実施における不安解消の方策

アンケートの結果からも分かるように、「総合的な学習の時間」の実施にあたって、多くの教師が疑問や不安を感じていることがわかる。それらは①「実際にどのように授業を導入・展開をしていくか」といった対生徒の課題、②「どのように共通理解をして、組織づくりをしていくか」といった教職員内の課題、③「家庭や地域社会と、どのような協力関係を築いていくか」といった対校外の課題に大別することができる。そこで、私たちは「総合的な学習の時間」をスムーズに導入していくための具体的な方策について検討し、以下のように考えた。

図1は「総合的な学習の時間」導入の流れを示したものであり、**総合的な学習の時間の名称決定**までは、早めに行っておく必要がある。「総合的な学習の時間」のような、今までの形式にとらわれない新しい学習を導入するためには、「学校としてそれをどう位置付け、どのように実施していくか」といった話し合いを十分時間をかけて行い、全教職員が共通認識をする必要がある。そのためにも学年の枠を越え、全校的な視野で「総合的な学習の時間」を進めていく推進役を組織の中に位置付けていくのが効果的である。

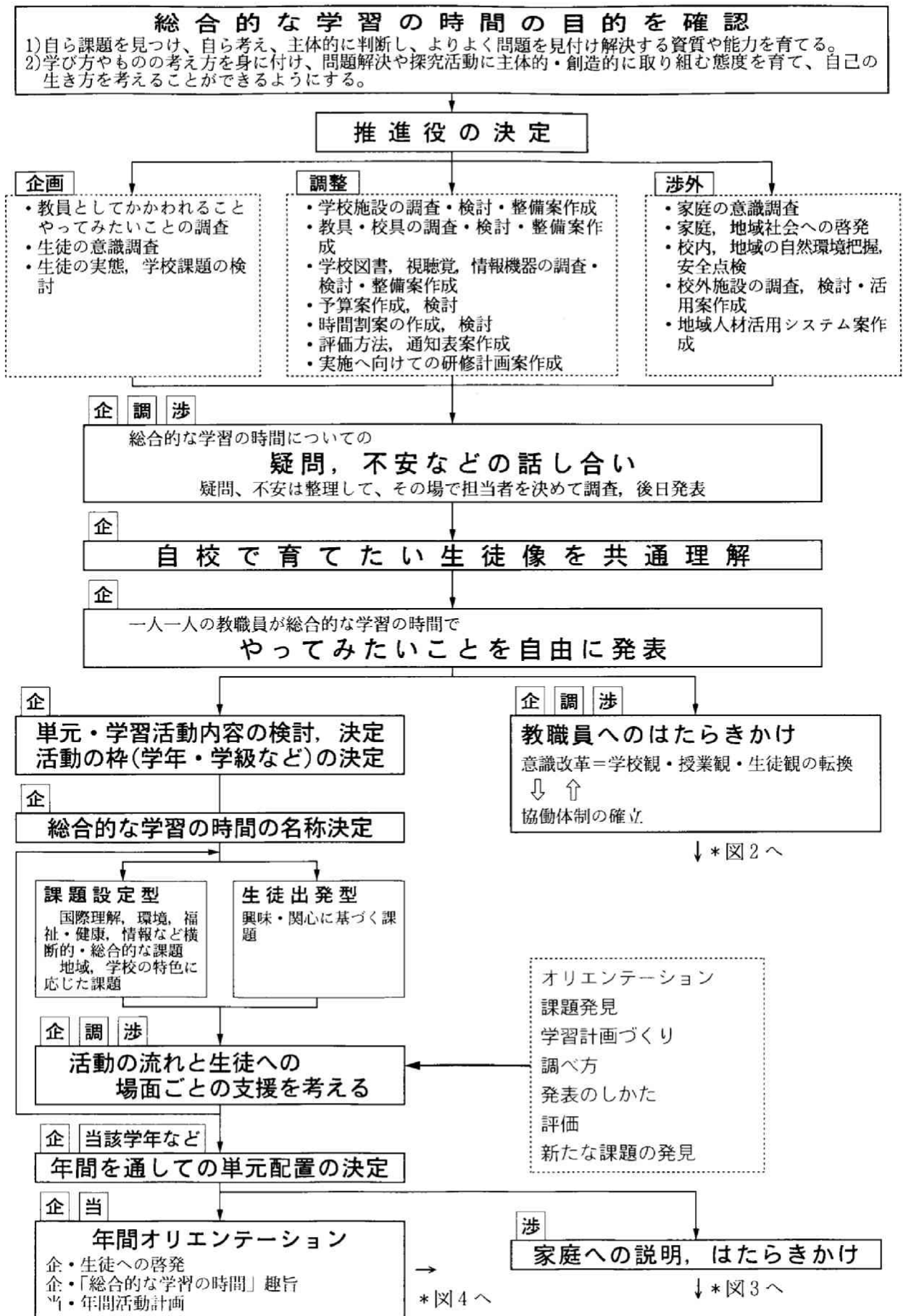
推進役には包括的・組織的な動きが必要で、企画・調整・渉外の3つの役割を分担して進めていく。そのためにも、学校規模にもよるが、できれば校内分掌内に設置し専属的に仕事が行えるようにすることが望ましい。

「総合的な学習の時間」の導入においては、どのような単元構成をして、どのような年間計画で実施していくかに不安が集中しがちであるが、初めから完全なものを求めようとせず、大まかな計画だけを立て、生徒の実態に応じて計画を常に変更していく柔軟性と、生徒一人一人の能力に応じたゴールフリーの気持ちをもつことが大切である。そのためにも計画→実施→評価を繰り返して、それぞれの学校にあった「総合的な学習の時間」を創り出していくことが必要であり、**活動の流れと生徒への場面ごとの支援**以降は毎年繰り返していく。

また、教職員の学校観や授業観、生徒観を転換していかない限り「総合的な学習の時間」の理念や目的を達成することは難しく、教職員の共通認識、共通理解さえきちんとできていればスムーズな導入が可能となる。その為にも推進役が中心となり、図2に示したように、教職員の意識改革を進め、協働体制を確立していくことが必須である。

改善のポイントの中で特に教科指導における基礎・基本の確実な定着は重要であり、必修教科だけでなく、選択教科の拡大・充実が求められる。また、教科担任制をとる中学校では、教科や学年の壁が知の総合化に対して大きな障害となる。それを取り払うためにも、他教科の理解と自教科の開放は必須である。さらに、従来までの授業スタイルとは異り、教え込むことから共に学んでいくといったスタンスに意識改革していかなければならず、そのためにも教職員自身の生活体験を充実させ、趣味や特技などを生かしていけるようにすることも大切である。

図1 「総合的な学習の時間」導入の流れ



これからの学校は、地域の教育機関として家庭や地域社会の要請に応じて、各学校の判断によって特色のある教育活動を自主的・自律的に展開する必要があり、家庭や地域社会への説明責任をもつ。また、教育活動を学校だけで抱え込むのではなく、家庭や地域社会と分担・連携をしていく必要もある。

その点においても図3に示したような方法で推進役が中心となり、学校、家庭、地域社会の三者で学ぶ「総合的な学習の時間」を展開していくことが重要である。

実施時における推進役の役割は、図4に示したように教職員への支援に徹し、直接生徒への指導をする教職員がスムーズに授業ができるよう、諸条件を整えることにある。

以上のように「総合的な学習の時間」の実施の不安を解消するためには、推進役を分掌内に位置付け校内の組織づくりをするとともに、教職員の意識改革を進めていくことが重要である。

図2 教職員へのはたらきかけの流れ

§改善のポイント

- ・抱え込み意識からの脱却
- ・生活体験の充実
- ・専門性、趣味、特技、持ち味の発展
- ・他から学ぶ姿勢、共に学ぶ姿勢
- ・現状理解と改革への意欲
- ・マニュアルからの脱却
- ・ティーチャーからモチベーター*、ナビゲーター*、プロンプター*へ
- ・教え込みから支援へ
- ・ゴールフリーへの発想
- ・2つの壁（教科、学年）の打破
- ・学校組織の活性化
- ・学年協働への責任感と参加意欲
- ・全校的視野（他教科の理解と自教科の開放）
- ・新しい指導体制、知の総合化
- ・学校間の交流
- ・生徒の多様化の認識と伸長
- ・教科指導における基礎・基本の確実な定着

§改善の具体化

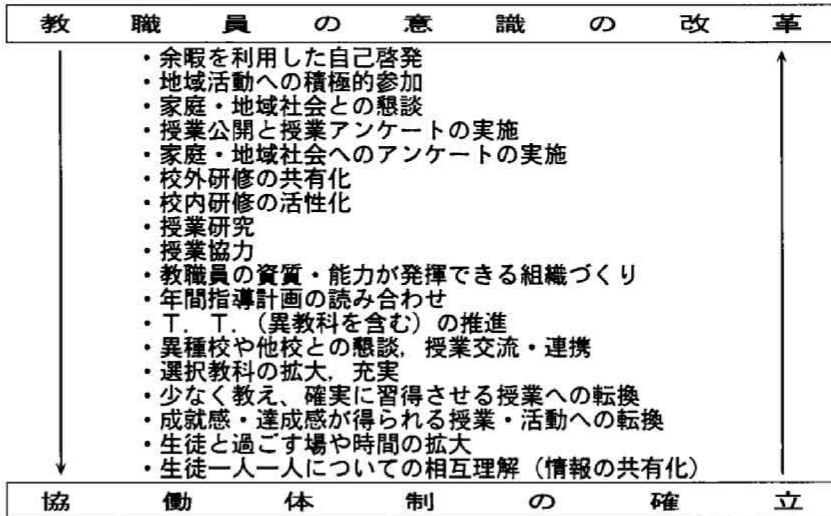


図3 家庭への説明、はたらきかけの流れ

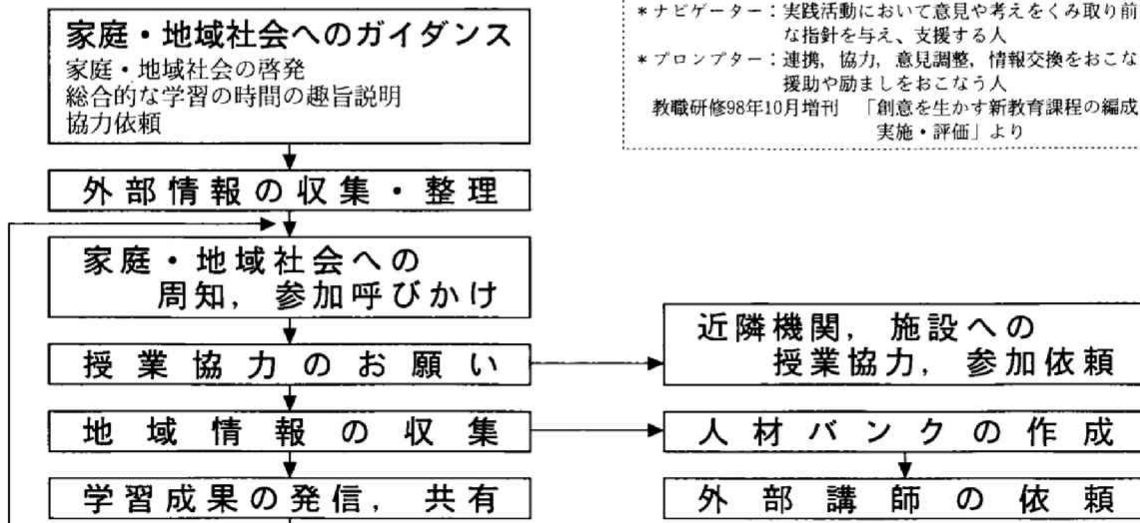
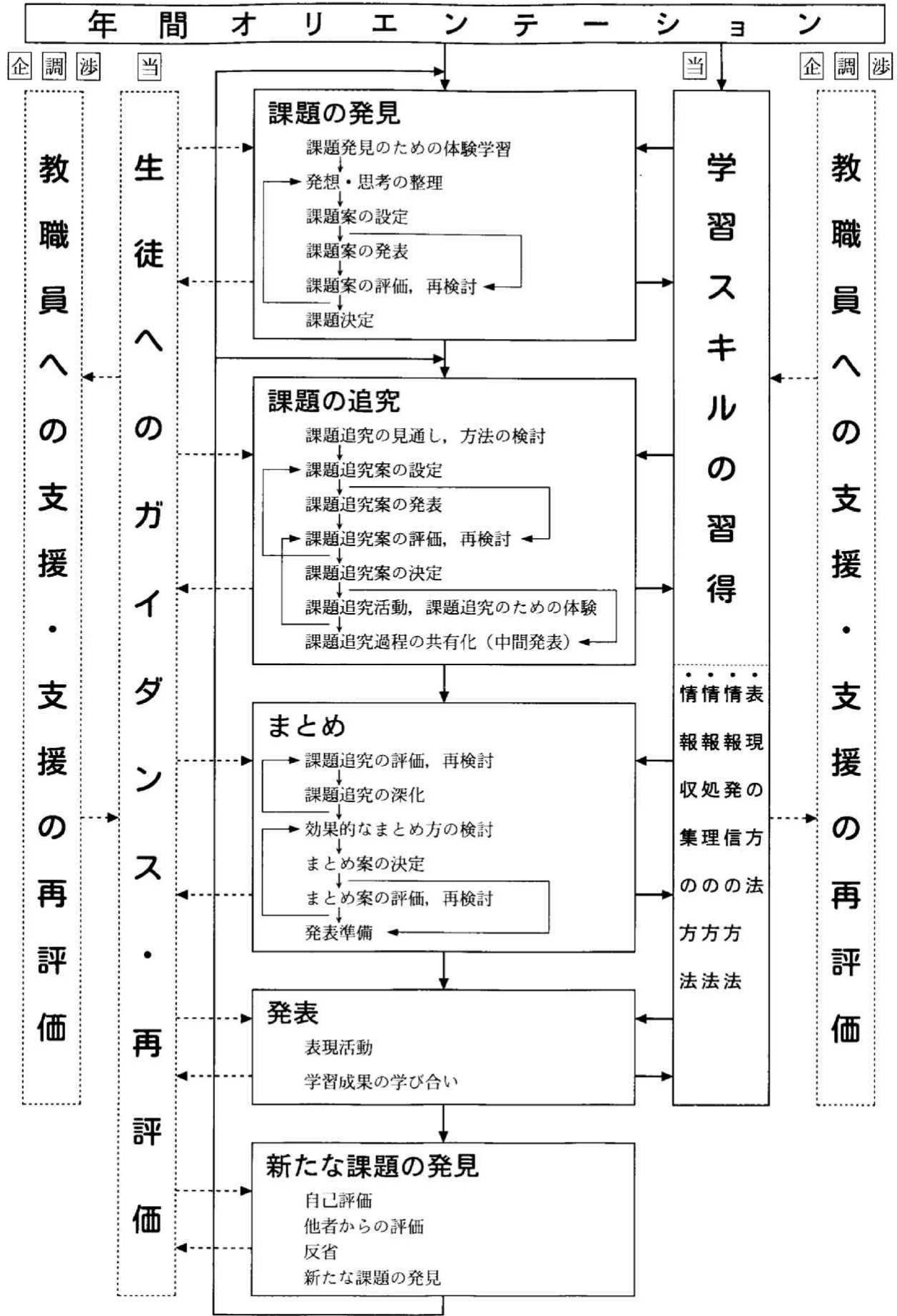
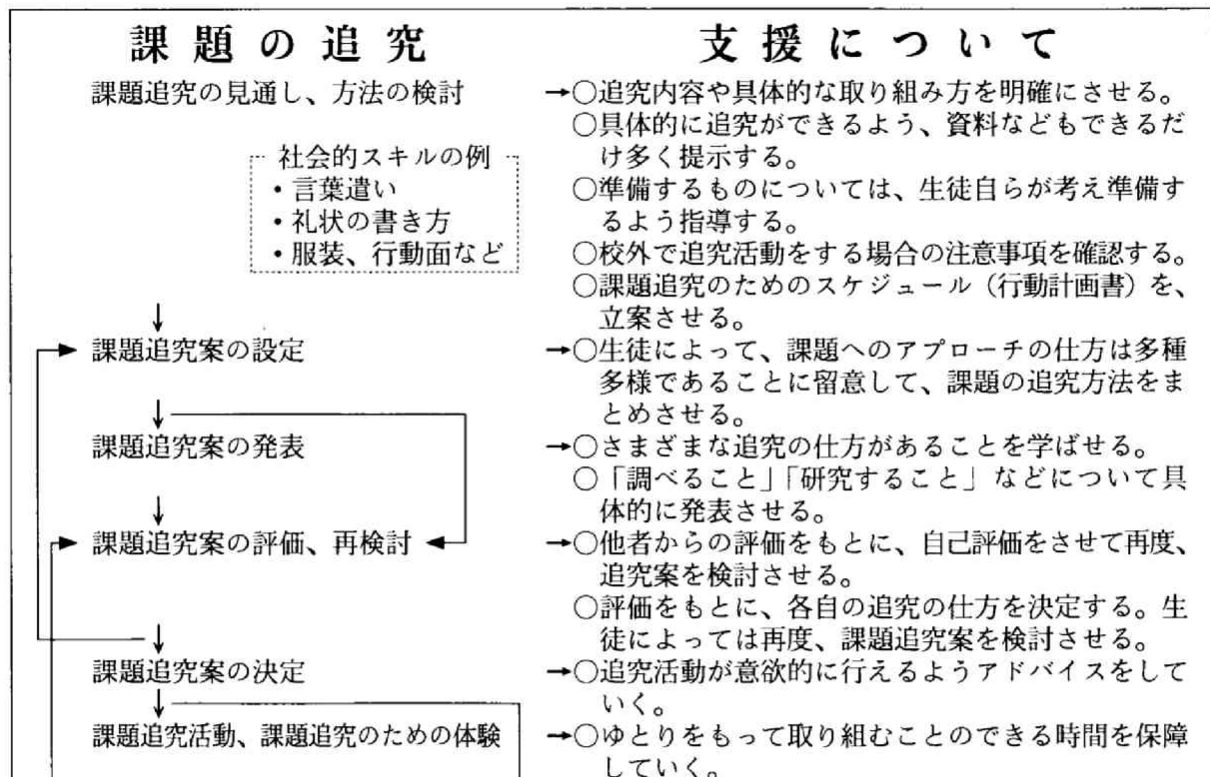
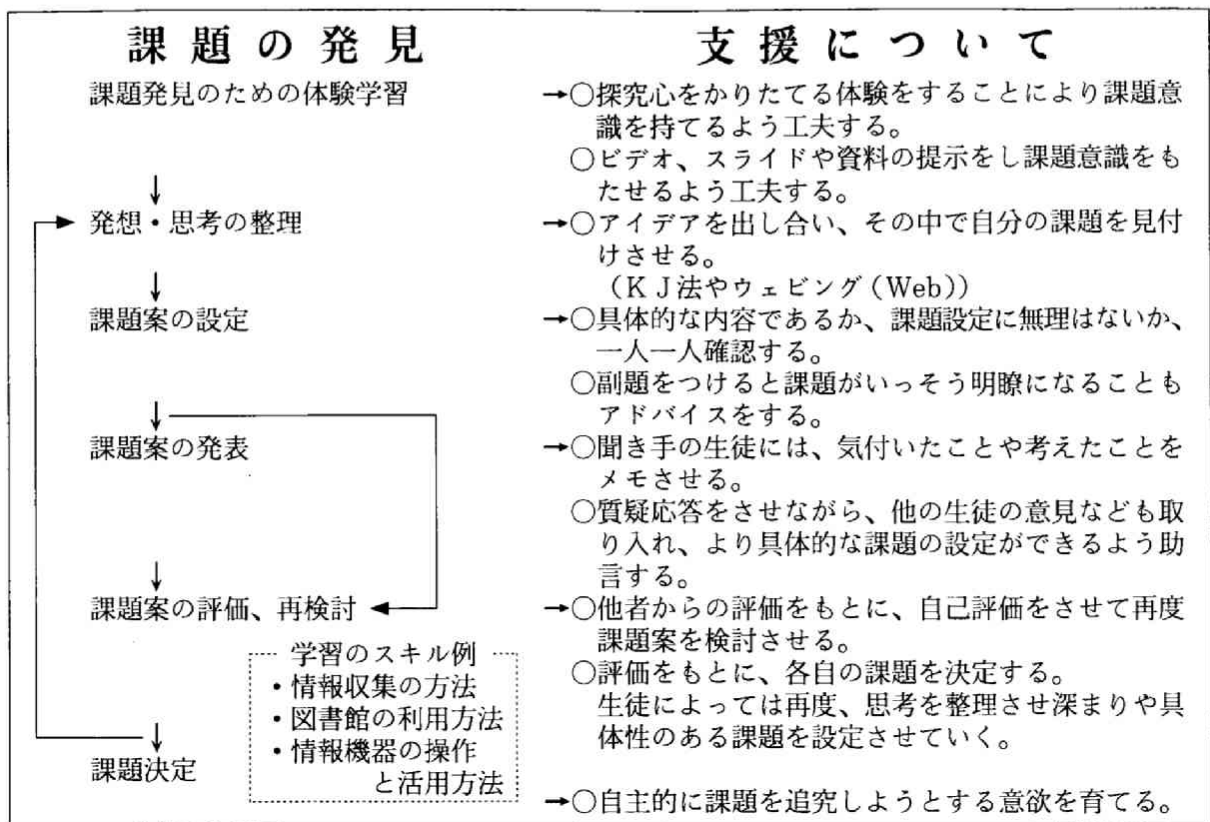


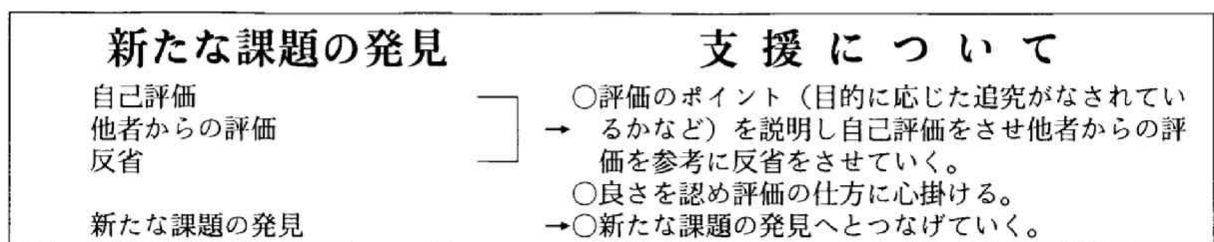
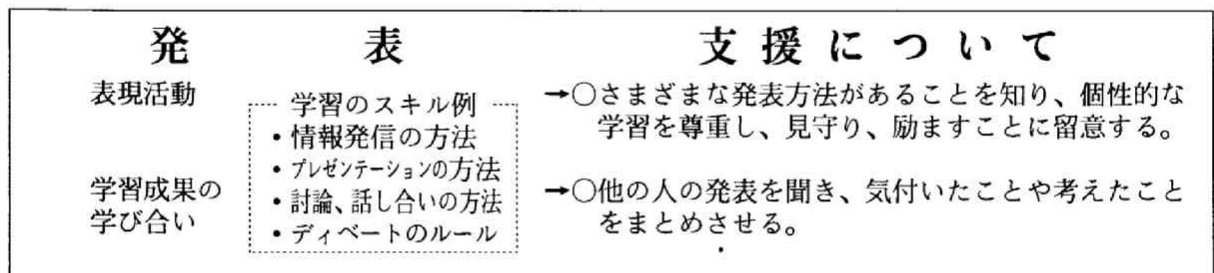
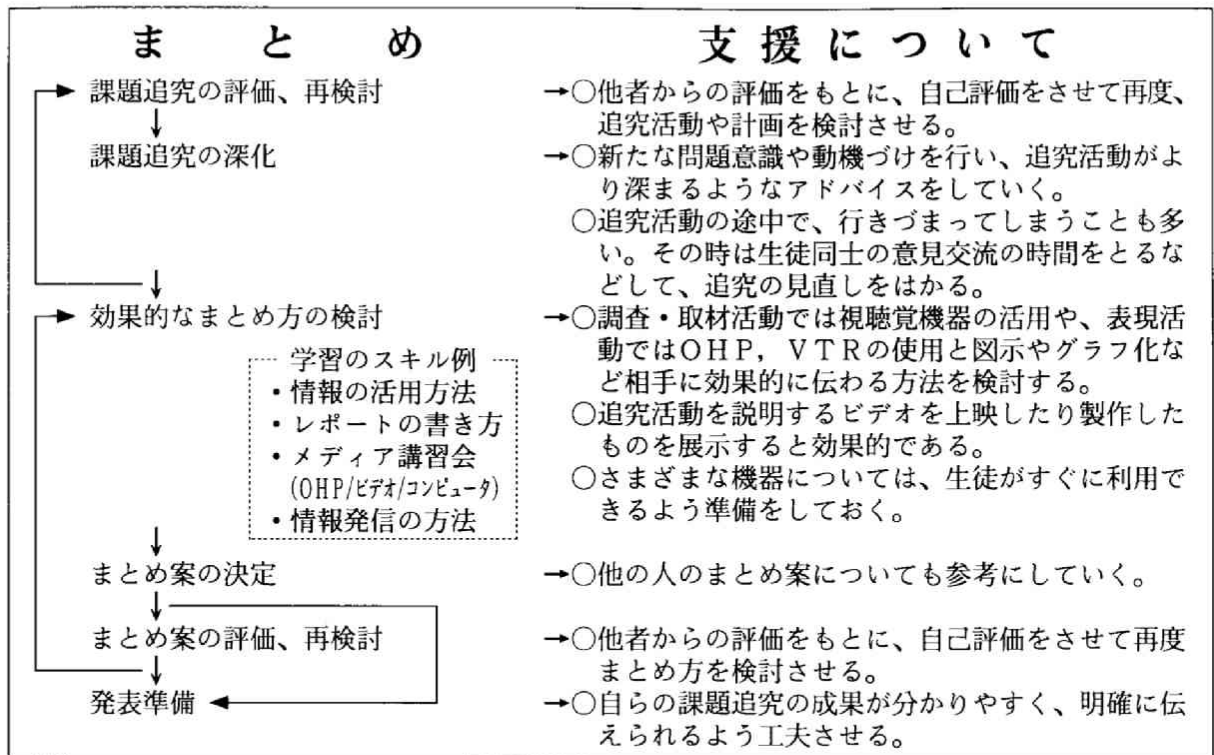
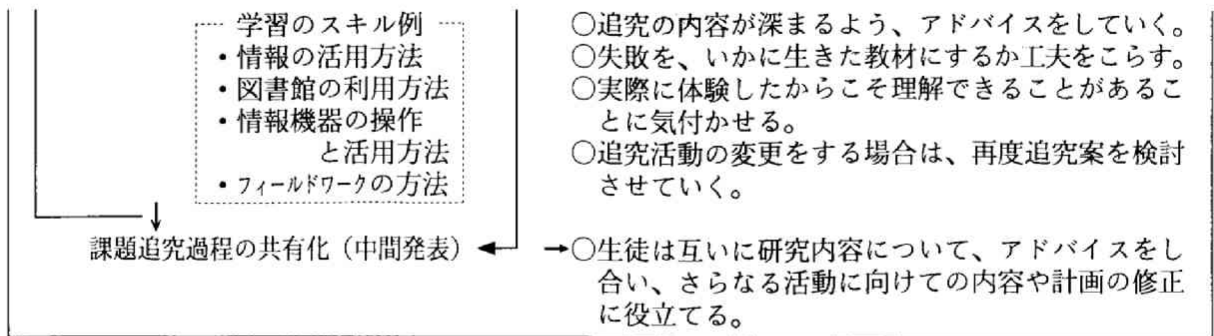
図4 「総合的な学習の時間」におけるガイダンスの流れ



V 「総合的な学習の時間」における生徒支援の流れと方法

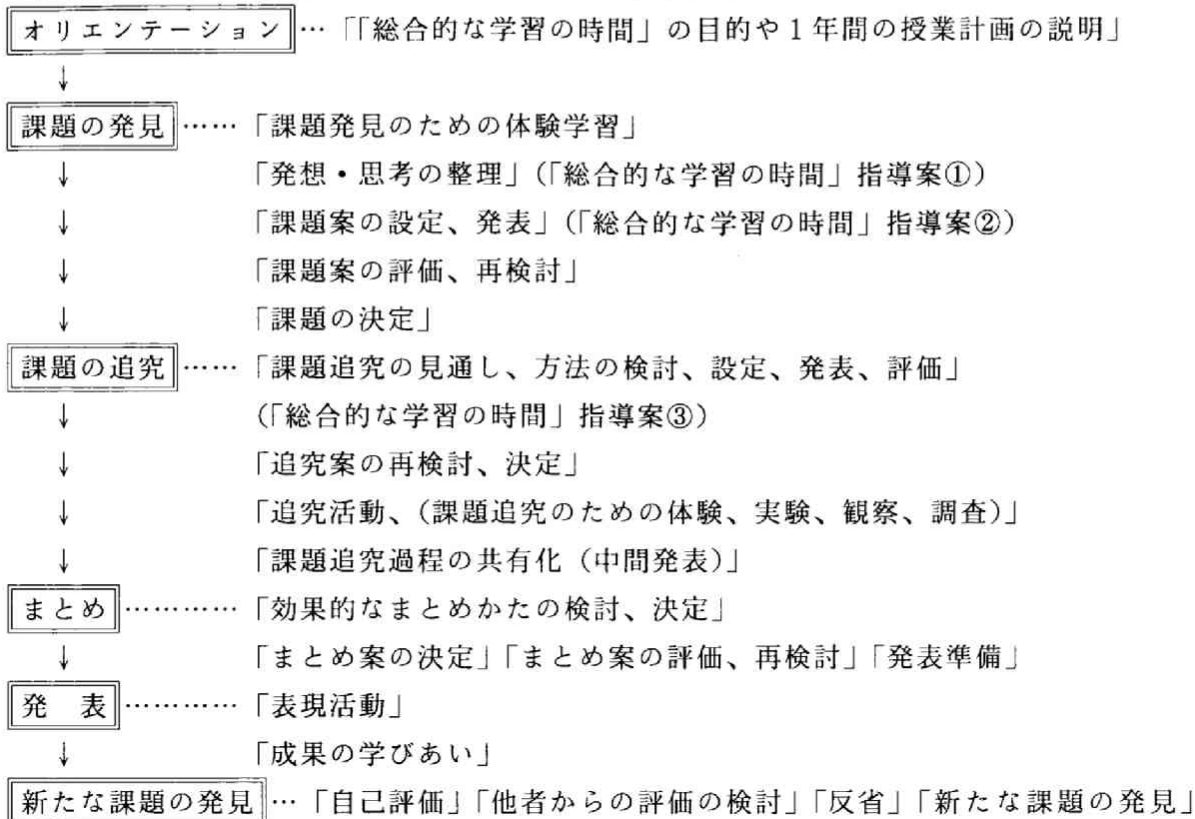
各場面ごとで教職員が行う具体的な生徒支援の方法についてまとめると、以下のようになる。
なお、学習のスキルに関しては必要に応じて繰り返し習得させるとより効果的である。





Ⅵ 実践例

1 「総合的な学習の時間」におけるガイダンスと単元学習の流れ



2 「総合的な学習の時間」指導案①

(1) 単元 「課題の発見」

(2) 単元設定理由

「課題の発見」のために「わたしの住んでいる町」というテーマを設定した。このテーマは、「地域」「環境」「福祉」など生徒の身近な生活と結びつきやすい課題であり、意欲的に取り組むことができる課題である。また、生徒一人一人が意欲的に課題解決学習に取り組めるように、このテーマに基づき「課題の発見」「課題の追究」「発表」「まとめ」という「総合的な学習の時間」におけるガイダンスの流れに沿って学習を進めていく。特に、初期段階の「課題の発見」の授業では、「わたしの住んでいる町」という言葉をキーワードとして、生徒一人一人が、自由に発想し、自分の興味・関心がある事柄に気付き、これから取り組む課題を発見する方法を理解させ、生徒が意欲的に「課題の追究」の授業へ進んでいくように展開する。

(3) 本時のねらい「発想・思考の整理」

- ① 生徒一人一人が自由に発想し、自分の興味・関心がある事柄に気付き、課題を発見する方法を理解する。
- ② トレーニングを通して、発想するおもしろさを経験し、思考を整理する技能を学ぶ。
- ③ 他の生徒の発表を聞き、メッセージカードを通して、学習に参加する態度を養う。

(4) 準備するもの

① イメージトレーニングペーパー

イメージトレーニング用の記入用紙。使用方法は、一つのキーワードからスタートして連想言葉の「輪」を完成させる。目的は、一つの言葉（キーワード）から連想することにより、生徒の発想する力を活発にすることができる。本時では、各班で1枚のイメージトレーニングペーパーを使用する。話し合いながらイメージトレーニングペーパーをやることにより、一人一人が取り組むよりも短時間で完成できる。

② Webカード

板書するかわりに、マグネット付きのカードに生徒の発言した言葉を記入して黒板に貼るカード。活用方法は、生徒の発言した言葉をカードに記入し、黒板に貼っていく。その言葉から連想したことを別のカードに記入し、それらを線で結んでいく。記入した言葉をマジックで色分けすることにより、第1段階・第2段階・第3段階（または、枝ごとに色分けする）と見やすく関連性のある言葉ごとに区別することができる。これは、ウェビングとよばれ、生徒の発想を生かしながら、生徒自身が思考を整理する方法の一つとして有効なものである。

③ ワークシート

「私の課題BEST3・選んだ理由」「今日の授業の感想」を記入する。完成したWebを参考にして、自分が興味・関心のある言葉を第3位まで順番を付けて選び記入する。第3位まで順位を付けることによって自分が選んだ理由を深く考えるようになる効果がある。「今日の授業の感想」は、生徒が本時の授業に意欲的に取り組むことができたかどうか評価する資料として活用できる。

④ メッセージカード

発表を聞いた生徒が、発表した生徒に対して、「よかった点」などを記入する用紙。本時では、無記名で1枚の用紙に5人分が記入できるようにした。授業終了後、発表した生徒に一人一人のメッセージを切り取って渡すことができる。メッセージカードを記入させることによって、発表する生徒の発言を集中して聞くことができる。また、メッセージカードによって、発表した生徒は自分の「よかった点」を発見することができたり、他の生徒から課題についてのアドバイスを受けることができる。その結果、クラスの生徒同士が互いに他人の意見を尊重し、よい人間関係を育てることができる。

(5) 前時の指導「課題発見のための体験学習」

- ① 学校の周辺に班ごとにコースをきめ、見学しながら歩く。見学して、自分たちが気付いたこと、興味のあることを発表しあう。
- ② 生徒一人一人が、通学路で見かける建物や風景について作文をつくり、お互いの作文を発表しあう。
- ③ スライド・ビデオを使って、自分の住んでいる町以外の町の風景を見て、自分たちの住んでいる町について考える。
- ④ 地域コーミングを行う。個人や班で地域に出かけ、目的別にゴミを収集する。その後、収集したゴミを分析し、その調査結果をクラスで発表しあう。

(6) 本時の展開「発想・思考の整理」

| | 学 習 内 容 | 学 習 活 動 (予想される生徒の反応) | 支 援 上 の 留 意 点 (評 価 の 観 点) |
|------------------------|---|--|--|
| 導 入 15 分 | <ul style="list-style-type: none"> * 学習目標の説明 * イメージトレーニング | <p>「課題のを見つけ方を勉強しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> * 班ごとに連想し、配布されたイメージトレーニング用紙に記入する。 * 班ごとに、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> * 自由に連想し、発表できたか。(評価) (方法: 班ごとの記入用紙で評価) |
| 展 | <ul style="list-style-type: none"> * 課題を見つける練習 <p>[予想される生徒の反応]</p> | <ul style="list-style-type: none"> * 発言が途切れる。 * 発言が止まらない。 | <ul style="list-style-type: none"> * すべての発言を肯定的に受け止める。 * つながりがわかるように Web カードに記入して黒板に貼る。線で結びつきを表す。 * 自由に発想できたか。(評価) (方法: 発言した生徒の数を記録) * さらに発言が進むように助言する。 * Web の 3 番目が出たくらいで止める。 |
| 開 25 分 | <ul style="list-style-type: none"> * 自分の課題を見つける。 * 自分の課題 BEST 3 とその理由を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> * ワークシートに自分の課題 BEST 3 とその理由を記入する。 <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自分の課題が一つも見つからない生徒がいる。 * 他の生徒の発表を聞き、メッセージカードに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> * ワークシートを配布する。 * Web を参考にして、興味・関心のある言葉を選ぶように助言する。 * 課題が見つからない生徒には、見つからない理由を記入するように指示する。 * 見つからない理由を聞き、理由を肯定的に受け止める。 * メッセージカードを配布し、発表者のよかった点が伝わるように記入させる。(支援) (方法: 授業終了後発表者にメッセージカードを手渡す) * 他の生徒の発表を聞くことができたか。(評価) (方法: 静かに注目することができたか) * メッセージカードが記入できたか。(評価) (方法: 巡回して確認する) |
| ま と め 10 分 | <ul style="list-style-type: none"> * 各自の課題の確認 * 授業の感想 | <ul style="list-style-type: none"> * ワークシートに授業の感想を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> * 課題のを見つけ方を理解することができたか。(評価) (方法: ワークシートを回収して確認する) * 意欲的に参加することができたか。(評価) (方法: ワークシートを回収して確認する) |

(7) 考 察

本時では、ガイダンスの流れにおける課題の発見において、発想・思考の整理の在り方を課題とした。「総合的な学習の時間」の初期段階なので、特に生徒の興味・関心を大いに喚起できるような指導の工夫が重要と考えた。また、一人一人の生徒の自由な発想と個性を大切にす教師の姿勢が大切にとらえた。そして、生徒の発表活動とそれを通しての相互評価、及びそれをもとに自己評価を行い、自主的に課題を追究する意欲を育てることをめざした。

導入部では、自由に発想する楽しさを体験し活発な活動を促すため、イメージトレーニングペーパーを活用した授業を展開した。事前の予想では、連想の輪の作成は、生徒一人では難しさを感じる場合もあるのではないかと考え、班による活動とした。班活動の中でコミュニケーションを取り合いながら、発想を膨らます活動がみられた。しかし班という集団による活動のため、個人の意見が十分に取り入れられたかという点では、課題があったと感じる。

展開部の課題を見つける練習として、「私の住んでいる町」をキーワードとするウェビング(Web)の手法を活用した。その際の留意点として、生徒の発想のプロセスは個性的で、独自のものであり、その生徒の感性にかかわるものであると教師は認識することがあげられる。そのことで、生徒にはどんなことを発想してもよいという安心感が生まれ、課題の発見の大きなエネルギーになると考えた。教師の姿勢としては、生徒の発言を肯定的に受け止め、励ましの言葉かけを大切にする教育相談的なかわりを重視した。

授業では、活発に自分の発想を発言し、意欲的に参加する生徒の姿勢が多く見られた。特に「公園」や「集合住宅」からの発想は教師の予想をはるかに上回る広がりを見せた。また「老人」など今日的な課題に結びつく可能性のある言葉も発想できた。生徒の発想の中には、教師が取り上げるには、躊躇してしまいそうなものもあるが、その時こそ教師の上記の姿勢が問われると考える。

課題の発見では、生徒が選んだ言葉に順位とその理由を付けることで、自分の選択に自信をもち、生徒に主体性と学習意欲がでてきた。実際にイメージしやすいからか、生徒の多くは身近な項目を選ぶ傾向が強く、生徒の課題に対する切り口をどのように支援するかが、今後の一つの課題となると考える。

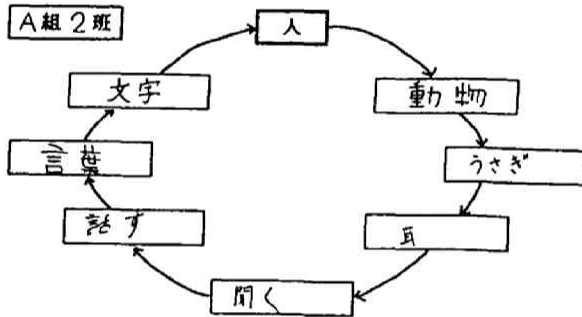
発表に対するメッセージでは、肯定的な内容のメッセージを送るという条件を出し、相互評価を通して人間関係を良好にしながら、次へのモチベーションを高める試みを図った。生徒の記述には「良いアイデアだった」「夢があっていい」などの発言がみられた。また「他者の良い所を見つけるのが大変だった」という発言もあった。ガイダンスを通して、他者理解の指導や支援を積み重ねていくことが重要と考える。

授業の感想では、多くの生徒が「楽しく意欲的に取り組むことができた」とまとめている。じっくりと取り組む時間の確保を望む記述もあった。多くの内容を一時間で行ったため、慌ただしくなったのは否めない。今後の課題として、指導内容を再検討し、授業構成・配分時間などを吟味する必要がある。

(資料1) 生徒の「イメージトレーニング」

イメージトレーニング

下の図の空欄に、前の言葉から連想できる言葉を順番に入れて、連想言葉の「輪」を完成させよう!



(写真1) Webカードを黒板に貼る



(資料2) 生徒の「メッセージカード」(1)

メッセージカード 1

() さんへのメッセージ
 ;
 こういうは、そうをみるのもいいかと。思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 2

() さんへのメッセージ
 ;
 イメ→ジが、つまっていいと思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 3

() さんへのメッセージ
 ;
 す→く、いい考えだ。と思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 4

() さんへのメッセージ
 ;
 中には、いい学校だから、いいじゃあないかと。思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

生徒の「メッセージカード」(2)

メッセージカード 1

() さんへのメッセージ
 ;
 おもしろい、オラで、よかったです。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 2

() さんへのメッセージ
 ;
 たぶん、-んぐりしをした、ていう意味だ、たと思っただ
 けで、-んぐりしをした、ていう意味だ、たと思っただ
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 3

() さんへのメッセージ
 ;
 本気で、いせいがいい、ていうのがあるけど、でも、これ、て
 いうイメージもありました。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 4

() さんへのメッセージ
 ;
 IMAには、私、ほとんど、ていうので、ええんだ
 理由が、よくわかりました。
 *良かった点を見つけて記入しよう

生徒の「メッセージカード」(3)

メッセージカード 1

() さんへのメッセージ
 ;
 元気が良かった。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 2

() さんへのメッセージ
 ;
 元気が良かった。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 3

() さんへのメッセージ
 ;
 身近な1-Aを調べるのは、調べやすく、いいと思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

メッセージカード 4

() さんへのメッセージ
 ;
 利用する所は、知って、いそう、意外と、知らなかったり、から
 調べるのは、いい機会だ、と思った。
 *良かった点を見つけて記入しよう

(資料3) 生徒の「ワークシート」(1)

ワークシート

私の課題BEST 1 三中

私の課題BEST 2 光が丘公園

私の課題BEST 3 コンビニ

選んだ理由

1 三中が好きだから。

2 光が丘公園広くて、楽しいから

3 たくさん商品があるから。(ゲーム、おでんなど)

今日の授業の感想

今日、1-Aにいろいろな所から来てくださった先生方と授業をして、みんな感想をしたのがたです。

いつも長く感じた授業で、か今日の5時間目の授業は、とても早く終わった気がします。また、こんなきかいがあったらまたやりたいです。(ほかの授業をつぶして)

生徒の「ワークシート」(2)

ワークシート

私の課題BEST 1 3中

私の課題BEST 2 コンビニ

私の課題BEST 3 コギョルいっぱい

選んだ理由

3中はとてもいい学校だから。

いろいろな商品が売っていて、私自身コンビニがけっとう好きだから

私も高校生になったらコギョルになって自由にしつやとかに行きたいから

今日の授業の感想

今日のびびびびは、私たちにとてもとてもいい経験になったな→と思った。こうやって考えるとじかんがみじかく感じた。とてもみんなはもうがよくてよかった。またこのびびびびをやりたい。

生徒の「ワークシート」(3)

ワークシート

私の課題BEST 1 コンビニ

私の課題BEST 2 三中

私の課題BEST 3 大江戸線

選んだ理由

コンビニを選んだのは、いろんな品物があって楽しそうだし、店もたくさんあるから。三中を選んだのは、入学してからのこと。

今日の授業の感想

今日の先生は、とてもいい先生だ。みんなも楽しそうだった。でも、数学とかは、覚えがつかなくて、なにも覚えていない。これがいい。

生徒の「ワークシート」(4)

ワークシート

私の課題BEST 1 コギョルいっぱい

私の課題BEST 2 1年A組

私の課題BEST 3 コンビニ

選んだ理由

コギョルのきょうおがあるから、楽しそうだから。

1年A組の自分のクラスだから、おもしろいから。

コンビニはよく行くから、おもしろいから。

今日の授業の感想

おもしろかった。毎日おもしろいと思う。あ、でも、毎日やってたら、頭の中が空っぽになってしまうから、おもしろいから、かいておもしろい。

3 「総合的な学習の時間」指導案②

(1) 単元「課題の発見」

(2) 単元設定理由

前時で生徒が関心をもったキーワードを「だれが」「何を」「いつ」「どこで」「なぜ」「どうやって・どうしたら」の5W1Hの観点から考えさせ、自分の課題案について検討する。

(3) 本時のねらい「課題案の設定・発表」

- ① 自分の課題について具体的に「何を追究する」のか考え課題案を発表する。
- ② 他の生徒の意見を参考に各自の課題案を決定する。生徒によっては再度課題を検討する。

(4) 準備するもの

- ① ワークシート「課題について考えよう」…… 生徒の追究課題を具体的に整理したり、考察したりするために使う。
- ② 前時の授業で使ったWebカード

(5) 本時の展開「課題案の設定・発表」

| | 学 習 内 容 | 学習活動（予想される生徒の反応） | 支援上の留意点（評価の観点） |
|--------|--|--|--|
| 導 入 | <ul style="list-style-type: none"> * 学習目標の説明 * 「課題について考えよう」 | <ul style="list-style-type: none"> * 前時の授業で生徒が発表したWebカードを黒板にはりこの言葉をもとに「だれが」「何を」「いつ」「どこで」「なぜ」「どうやって・どうしたら」の5W1Hの観点から考えられることを発表する。 (予想される生徒の反応) | <ul style="list-style-type: none"> * 本時間のねらい、流れについて教師が説明をする。 * 教師は1つのキーワードの中に追究する課題がいくつもあることを気付かせる。 * 1つのキーワードの中に追究する課題がいくつもあることに気付くことができたか。 (評価) (方法: 発言した生徒の数を記録) |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>大根は「だれ」が作り始めたのだろうか？ 「いつ」から食べているのだろうか？ 「どこで」「どのような」大根が作られているのだろうか？ 「なぜ」青首大根は首のところが緑色なのだろうか？ 「どうやって」大根を作るのだろうか？</p> </div> | | |
| 展 開 | <ul style="list-style-type: none"> * 「自分の課題について考え、発表しよう」 | <ul style="list-style-type: none"> * 各自で前時の授業で選んだ3つのキーワードについてそれぞれ5W1Hの観点から思いつくことを考え、ワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> * 自分の課題について調べたり考えたりする際の観点をたくさん見つけることができたか。 (評価) (方法: 巡回して確認する) |

| | | | |
|-----|------------------------|---|---|
| | * 生徒の相互支援 | * 自分の課題案を決め、上記の観点をもとに何について考えたり、調べたりするのか具体的に発表する。他の生徒はその事について5W1Hの観点から別の考えがあれば発表する。発表者はアドバイスを自分のワークシートに記入し、課題決定の参考にする。 | * 発表者に対してアドバイスができたか。(評価) (方法: 発言した生徒の数を記録) |
| まとめ | * 各自の課題案の確認 * 授業の感想 | 各自アドバイスを取り入れるかどうかを検討しながら課題案を決定をし、ワークシートに記入し提出する。 | * 課題案の共有化をする。 (支援) (方法: 次回の授業で生徒全員の課題案を発表したり、または掲示したりする) |

(6) ワークシート『課題について考えよう』

前回の授業で選んだ関心のある項目ベスト3 (その後自分で別のキーワードを見つけた人はそれでもよい) についてそれぞれ「だれが」「何を」「いつ」「どこで」「なぜ」「どうやって・どうしたら」という観点から不思議に思ったり、調べてみたり、考えてみたいことをできるだけたくさん書こう。それをもとに自分が『総合的な学習の時間』に考えたり、調べたり、体験したりするテーマ(課題案)を1つ決めて発表しよう。前回のベスト1以外のベスト2やベスト3から決めてもかまいません。

| | ベスト1 | ベスト2 | ベスト3 |
|---------------|------|------|------|
| 「だれ」 | | | |
| 「何を」 | | | |
| 「いつ」 | | | |
| 「どこで」 | | | |
| 「なぜ」 | | | |
| 「どうやって・どうしたら」 | | | |

私の課題案 テーマ 「 」について

4 「総合的な学習の時間」指導案③

(1) 単元「課題の追究」

(2) 単元設定理由

生徒が見つけた課題についてその追究方法や発表の方法を考え、追究の見通しをもつことができるようにする。

(3) 本時のねらい

- ① 様々な追究の方法があることを理解する。
- ② 自分の課題についての追究の方法、発表の方法を考え発表する。
- ③ 他の生徒の意見を参考に、各自の追究の方法を決定する。生徒によっては再度、課題追究案を検討する。

(4) 準備するもの

- ① 活動計画カード（マグネットつき）…… 生徒が決定した課題を追究したり発表するためには様々な方法があることを知り、また自分の課題追究、発表にはどの方法がよいのか考えさせるために使用。

図書館
インターネット
インタビュー
アンケート
実験
観察・記録
体験
見学
印刷物
壁新聞
ビデオ
コンピュータを使って
展示

- ② ワークシート『課題の追究の方法を学ぼう』

(5) 本時の展開「課題追究」

| | 学 習 内 容 | 学習活動（予想される生徒の反応） | 支援上の留意点（評価の観点） | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----------------------------|---|--|-------|-------|-------|--------|----------------|-------------------|----------------------------------|------|--------|-----------|------------|--|
| 導 | ＊学習目標の説明 ＊「課題の追究の方法を学ぼう」 | ＊練習課題（ワークシート）についてグループで、その調査方法、発表の方法について話し合い、カードを黒板に掲示する。 （予想される生徒の反応） | ＊本時間のねらい、流れについて教師が説明をする。 ＊教師は同じ課題でも色々な追究の方法があることを気付かせる。 ＊様々な追究の方法があることを学べたか。（評価） （方法：発表された異なる追究方法の数を記録） | | | | | | | | | | | | |
| 入 | | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループ1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループ2</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">グループ3</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">課題追究方法</td> <td>図書館 インターネット</td> <td>見学 体験 実験・観察</td> <td>インターネット インタビュー 実験 アンケート</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発表方法</td> <td>コンピュータ</td> <td>壁新聞 展示</td> <td>壁新聞 ビデオ</td> </tr> </table> | | グループ1 | グループ2 | グループ3 | 課題追究方法 | 図書館 インターネット | 見学 体験 実験・観察 | インターネット インタビュー 実験 アンケート | 発表方法 | コンピュータ | 壁新聞 展示 | 壁新聞 ビデオ | |
| | グループ1 | グループ2 | グループ3 | | | | | | | | | | | | |
| 課題追究方法 | 図書館 インターネット | 見学 体験 実験・観察 | インターネット インタビュー 実験 アンケート | | | | | | | | | | | | |
| 発表方法 | コンピュータ | 壁新聞 展示 | 壁新聞 ビデオ | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-------------|----------------------------|--|--|
| 展 開 | * 自分の課題追究案について考え、発表する。 | * 各自で次の項目について追究案を発表する。 ①自分の決定した課題 ②調査の方法 ③発表の方法 | * ①はチョークで記入 * 自分の課題についてその追究の方法や発表方法に見通しをもつことができたか。 (評価) (方法: 巡回したり発表を記録) |
| | * 生徒の相互支援 | * 他の生徒は追究や発表方法について質問やアドバイスをする。 | * 発表者に対してアドバイスをすることができたか。 (評価) (方法: 発言した生徒の数を記録) |
| ま と め | * 各自の課題の追究計画の確認 * 授業の感想 | * 各自アドバイスを取り入れるかどうかを検討しながら課題追究の計画決定をし、計画表(ワークシート)に記入し提出する。 | * (支援) (方法: 追究方法で困っていることを質問カードに書いて掲示しその答えがわかる生徒は回答カードで答える) |

(6) ワークシート『課題の追究の方法を学ぼう』

練習 次の事柄についてグループで話し合いその結果を黒板で発表しよう。

Aさんは「わたしの住んでいる町」の授業で次のように連想しました。

Aさんの連想 わたしの住んでいる町→畑→大根→青首大根

そして自分の課題案を考える時間ではさらに次のように考えました。

* 大根はどうやって作るのだろう？

* なぜ大根は白いのだろう？

* なぜ青首大根は上のところが緑色のだろう。

* 青首大根以外の大根にはどんな種類があるのだろう？

* それぞれの大根で味は違うのだろうか？

* 大根を使った料理にはどんなものがあるのだろうか？

①上のAさんが不思議に感じたことをどうやって追究しますか。

A 図書館で調べる B インターネットで調べる C インタビューで確める
D アンケートで確める E 実験で確める F 観察・記録で確める
G 体験して確める H 見学して確める

②Aさんが考えたことや、調べたことを次のどの方法で発表しますか。

A 印刷物で発表する B 横造紙新聞を使って発表する C ビデオを使って発表する
D コンピューターソフトを使って発表する E 展示する

「自分の課題追究計画案をたてよう」
自分の課題について次の項目に従って整理してみよう。

| | |
|-------------|-----------------------|
| 自分の課題 | () について |
| 調べようとしていること | |
| 追究方法 | 具体的に何を調べたり体験したりする考えよう |
| 図書館で調べる | |
| インターネットで調べる | |
| アンケートで確める | |
| 見学して確める | |
| 体験して確める | |
| 実験で確める | |
| 観察・記録で確める | |
| インタビューで確める | |
| 発表方法 | どの発表方法を組み合わせるか考えよう |
| 印刷物で | |
| 横造紙新聞を使って | |
| ビデオを使って | |
| コンピューターを使って | |
| 展示する | |

自分の課題追究案について友達から質問されたりアドバイスを受けたことをメモしよう。受け入れてもよいアドバイスがあれば上の課題追究案につけ加えよう。

Ⅶ 成果と課題

国際化・情報化・少子高齢化をはじめ、激しい変化を迎えている日本社会。しかし、未来を担う子どもたちを育てている中学校は、希薄な人間関係、社会性の不足、学習意欲の低下など様々な問題に直面している。ゆえに、学校生活の大半を占める授業は、子どもにとって魅力的で分かりやすく充実したものにしなければならない。特に、「総合的な学習の時間」では、「生きる力」をはぐくむために、自ら課題を見つけ、自ら学ぶ学習活動を通して、学び方やものの考え方を身に付けることが期待されており、生徒の学習意欲を高めることがその学習活動において重要となる。

私たちは研究をスタートさせるにあたり、各学校で試行段階にある「総合的な学習の時間」についての不安や悩みを出し合った。その過程で、「総合的な学習の時間」の捉え方にそれぞれ違いがあることがわかってきた。そこで、「総合的な学習の時間」の先進校における取り組みを参考に、教科（合科を含む）、選択教科、「総合的な学習の時間」の違いを明らかにすることを試みた。「総合的な学習の時間」のねらいを達成するためには、まず、各学校において教職員が「総合的な学習の時間」についての共通認識をもち、学年の枠を越えた全校的な視野での体制づくりをし、教科の壁を取り払う意識改革が重要であると考えた。次に、生徒の主体的な学習活動を引き出すためには、ガイダンスの機能の充実が必要であるという認識をもった。そして、これらの実践によりスムーズな学習の導入・展開が可能になるという考えに至った。

主体性重視型の「課題の発見」の授業研究では、生徒に自由な発想をさせ、そこから各自の課題を見付けさせるという支援を試みた。特に、生徒がこれからの「総合的な学習の時間」に対しても興味や期待を抱くように、「教え込みから支援へ」という意識で授業を構成した。その結果、意欲的な姿勢をもった生徒が多くみられ、なかには、「1時間の授業が短く感じた」、「教科の授業と違い、頭の中の知識を全部出し尽くした」という感想をもった生徒もいた。このことから、ガイダンスの機能の充実が学習意欲の向上に有効であると実感できた。課題性重視型では、「総合的な学習の時間」をスタートさせるに当たり、さらに、探究心を駆り立てるインパクトのある場面を設定し、生徒の気持ちをつかむことが重要であると考えた。いずれの形態においても「総合的な学習の時間」のねらいが生徒一人一人に実現されるように、常に「総合的な学習の時間」の質を高める努力を重ねていかなければならない。

今回の研究を通して、私たちは、「総合的な学習の時間」の充実が各教科を充実させ、各教科の充実が「総合的な学習の時間」を充実させるのではないかという手がかりを得ることができた。これからは、各教科の基礎・基本の徹底、選択教科の拡大・充実、さらに、「総合的な学習の時間」と道徳や特別活動との連携のあり方を検討することが課題となってくるものと思われる。また、評価に関しても、自己評価、相互評価、教師の評価、外部からの評価のあり方を探り、生徒が課題を発見したり追究する過程を重視できる評価を充実する必要がある。今回の研究成果に基づき、新たな課題の発見へと導く評価のあり方を研究することによって、生徒の学習意欲の維持・促進を図ることができるであろう。